ライブラリ室だよりＩ
~カタカナ表現の考察~

最近は、英語やカタカナ文字の表記が増えてきました。企業はCI(Corporate Identity)という英語の建前を掲げ、漢字だった会社名を英語やカタカナの名前につぎつぎと変更しています。また、カラオケで《苦しくて、せつないけど、頑張ろう！》と叫ぶことで自分だけを励ましたい人の要求に答えるべく、めんめんと似たような曲[1]を送り続ける人たちの名前は、曲名なのかバンド名なのか判然としないのも少なくありません。

現在日本語に携わる人に、押し寄せる外国語に立ち向かって適切な漢字を考案し普及させるという、明治の頃の意気込みはないようです。外国の言葉に対する抵抗がなくなってきたのが原因でしょう。その結果、《ただ外国語の発音にカタカナをあてた》だけの妙に長い外来語が「日本語」として流通しています[2]。

最新技術の追求が死活問題となる計算機のカタログを見ると、下の文章のように、ほとんど外来語が占拠しています。

> 当社のスケーラブル・コンピューティングシステムは、コンスタントなコストパフォーマンスを実現した新しいクラスのハイパフォーマンス・パラレルコンピュータです。プログラミングモデルは、共有メモリモデル、メッセージパッシングモデルが併用できます。また、アプリケーション・バイナリ・インタフェースにより、多くのデスクトップやサーバのソフトウェアが利用でき、ソースプログラムとのリンクとグラフィカルユーザインタフェースの使用によるパラレルアプリケーションをサポートしています。

〔某メーカーのカタログを少し修正したもの〕

では、カタカナ部分をすべて英語にするとどうなるでしょうか。

> 当社のscalable computing systemは、constantなcost performanceを実現した新しいclassのhigh performance parallel computerです。programming modelは、共有memory model、message passing modelが併用できます。また、application binary interfaceにより、多くのdesktopやserverのsoftwareが利用でき、source programとのlinkとgraphical user interfaceの使用によるparallel applicationをsupportしています。

〔カタカナをすべて英語に変換〕

これだけ英語が多ければ、全部英語で書いてくれた方が見易いでしょう。では反対に、無理矢理外来語を漢字に直してみます。

> 当社の拡張可能計算機構は、一定な価格性能比を実現した新しい階層の高性能並列計算機です。処理型は、共有記憶型、伝言伝達型が併用できます。また、応用二進仲介機能により、多くの卓上型や機能集中管理提供装置の計算機技術が利用でき、原始作業順序命令との連結と画像利用者仲介機能の使用による並列応用を提供しています。

〔カタカナをすべて漢字に変換〕

---

[1] キーワードは「君はひとりじゃない」「言葉では伝えられない」「遠くで祈り続ける」「ずっと守りたい」です。

[2] 例えば「リゾートサイクリングネットワーク」とか「デスティネーションショッパー」とか「スーパーリージョナルバンク」とか「ティッシュプラズミノーゲンアクチベーター」とかです。

一読して何のことかさっぱりわかりません。

とくに外来語のカタカナが広告で連発される理由には、その単語があまり頻繁に使われない「新鮮な」言葉だというのが大きな理由です[3]。例えば「値下げ」という単語が喚起する意味より、「プライスダウン」というカタカナの方が見る (聞く) 人の注意を引くのではと思っているようです。

さらに、外国語のような外来語を連発することで、小市民的な日常からの脱却を狙う手もあります。

次の文章は、あるマンションの広告のチラシに入っていた文章で、

この邸宅は空と海との間にある — あるエグゼクティブの一日 —

という表題がついています。

> 昨夜は、ひとつの大きなプロジェクトをやりとげた後の美酒に酔い、きょう一日ぐらいはのんびりしてもいいと、久しぶりの休暇をとった。いつもよりも、ゆっくりと起きだして、パジャマのまま、リビングのブラインドをあけると、ピクチャーウインドウという名の一枚ガラスの大きな窓から、彼方に連なる背振の山々が見える。マグカップのコーヒーを手にして見ると、いつもの風景なのに、また新鮮な景色に見えた。いい匂いにつられて、ふりかえると、ガラススクリーン越しのキッチンに立っていた妻が微笑んだ。卵は、スクランブルエッグ？それともサニーサイドにする？（中略）20 階までノンストップの専用エレベーターで、わが邸宅へと帰る。大理石のバスルームで、汗を流し、ベッドルームのウォークインクローゼットで、コンサートへ出かけるスーツを選んでいると、リビングで、お気に入りの曲を口ずさんでいる妻の声が聞こえた。まさにご機嫌な一日である。

〔あるマンションの広告チラシより〕

この外来語をすべてカタカナ以外で置き換えてみましょう。

> 昨夜は、ひとつの大きな計画事業をやりとげた後の美酒に酔い、きょう一日ぐらいはのんびりしてもいいと、久しぶりの休暇をとった。いつもよりも、ゆっくりと起きだして、寝間着のまま、茶の間の窓の日覆いをあけると、見晴らし窓という名の一枚硝子の大きな窓から、彼方に連なる背振の山々が見える。大きな洋風湯飲み茶碗の珈琲を手にして見ると、いつもの風景なのに、また新鮮な景色に見えた。いい匂いにつられて、ふりかえると、硝子のついたて越しのお勝手に立っていた妻が微笑んだ。卵は、いり卵？それとも目玉焼きにする？（中略）20 階まで不停止の専用自動昇降箱で、わが邸宅へと帰る。大理石の浴室で、汗を流し、寝室の納戸で、公開演奏会へ出かける上下お揃いの紳士服を選んでいると、茶の間で、お気に入りの曲を口ずさんでいる妻の声が聞こえた。まさにご機嫌な一日である。

〔カタカナをすべて漢字に変換〕

これだと、高級マンションの感じが全く伝わってきません。かといって、修正前が「上手な」文章かと問われると、考えてしまいます。

外来語という形で次々に増えていくカタカナ日本語を適切に取り入れた文章を書くのは、なかなか難しそうです。

[3] 気取っているといえばそれまでですが。